

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年9月18日

【評価実施概要】

事業所番号	鹿児島県指定 第4675200226号		
法人名	有限会社 文月会		
事業所名	グループホーム ころ		
所在地	鹿児島県 始良郡 加治木町 西別府 2820番地 3 (電話) 0995-63-6300		
評価機関名	NPO法人 自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構		
所在地	鹿児島市星ヶ峯4-2-6		
訪問調査日	平成21年9月14日	評価確定日	平成21年10月3日

【情報提供票より】(平成21年8月30日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年5月1日		
ユニット数	1ユニット	利用定員数計	9人
職員数	8人	常勤6人	非常勤2人 常勤換算7.96人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋造り		
	1階建ての	～	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	15,000円	その他の経費(月額)	400円
敷金	有()円 ○無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有()円 ○無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 950円		

(4) 利用者の概要(8月30日現在)

利用者人数	9名	男性	0名	女性	9名
要介護1	2名	要介護2	6名		
要介護3	0名	要介護4	1名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 85.4歳	最低	80歳	最高	92歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	大井病院	加治木温泉病院	桐原歯科医院
---------	------	---------	--------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームのすぐそばに憩いの場である桜の名所の公園があり、周りを畑に囲まれていて、自然豊かな環境の中で、くつろぎのある生活を支援している。ほとんどの職員が開設当時から勤務しており、「ここからの笑顔がこの地で共に生きる」との理念を基に、家庭的な雰囲気の中で、明るく笑顔がふれあい、馴染みの関係の中で支えあいながらのケアができています。ホームと地域と行政と医療機関が、しっかり連携の取れているホームである。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	職員の研修計画については、年間計画を立て、改善の取り組みがなされている。
①	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	全職員で自己評価を行い、介護のマネリ化や利用者の重度化についての話し合いがなされ、自己評価をすることでケアの見直しができ、充実した取り組みがなされている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議に地域の代表や行政等の参加を得て、地域の行事や情報交換・ホームの取り組み等を紹介している。そこでの出された意見や要望を日々のサービスに活かしている。
重点項目	②
	ホームの行事には、多くの家族が参加されるので、意見や要望を聞く機会を設けている。また、面会に訪れる家族も多く、声かけを行って意見等を運営に反映するように努めている。
重点項目	③
	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	④
	自治会に加入しており、子ども会の七夕飾りや雛女踊りの訪問を受けたり、清掃活動・文化祭等にも参加し、大正琴の定期演奏会の交流もある。また回覧板を利用者と一緒に近所に届けたりして、日常的に地域の中にとけ込んだ交流が図られている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	一人ひとりが心からの笑顔で、この地域で過ごせるように支えていくサービスとしての事業所独自の理念が作られている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を共有し、それぞれの立場で理念のもとに、その人らしい暮らしができるように、日々のケアに取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入しており、子ども会の七夕飾りや雛女踊りの訪問を受けたり、清掃活動・文化祭等にも参加し、大正琴の定期演奏会の交流もある。また回覧板を利用者と一緒に近所に届けたりして、日常的に地域の中にとけ込んだ交流が図られている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員で自己評価を行い、介護のマンネリ化や利用者の重度化についての話し合いがなされ、自己評価をすることでケアの見直しができ、充実した取り組みがなされている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議に地域の代表や行政等の参加を得て、地域の行事や情報交換・ホームの取り組み等を紹介している。そこでの出された意見や要望を日々のサービスに活かしている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政との連携が密で、必要に応じて行政からの声かけがなされ、情報交換ができています。町とともにサービスの質の向上への取り組みがなされている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホーム便りを年4～6回作成し家族へ送っている。家族の訪問が多く、面会時に利用者の暮らしぶりを報告している。金銭管理も家族の来訪時に小遣い帳と現金の点検をしてもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が行事への参加時や面会等にいられた時に、職員は声かけを行い、意見や要望を聞いて運営に活かしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設時から職員の異動は行なわれていない。異動があった場合は、引継ぎ期間を設けて入居者のダメージを防ぎ、信頼関係を築けるよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間研修計画を作成して、交代で参加している。法人内外の研修にも参加している。資格取得や研修参加のための勤務調整をして、職員を育てる取り組みを行っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム協議会に加入しており、今年担当となっている。職員の交流研修を計画し、相互間の連携を行い、サービスの質向上への取り組みを行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居申込みがあれば自宅や医療施設を訪問し、本人や家族と懇談している。ホームの見学も勧め、職員や他の利用者・ホームの雰囲気に馴染めるように工夫し、安心して入居できるように支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日々の会話の中から、お付き合いの仕方・料理・挨拶・ものの作り方・嫁姑の話し等、利用者から学んだり共に支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントを行い本人の意向や思いの把握に努めている。また、本人や家族と話をすることで情報収集を行なうようにしている。困難な場合は、職員で話し合い本人本位で検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族・職員でそれぞれ話し合いをもち、介護計画の作成を行なっている。職員が日頃から詳細に記録しており、意見やアイデアを介護計画に反映している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月ごとのモニタリングで見直しを行なっている。退院等で状態の変化が見られた場合は、その都度、計画の見直しを行い、希望や現状に即した介護計画を作成している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	病院受診・美容院・墓参りに行ったり、要望に応じて多機能性を活かした支援を行なっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の受診を支援している。町・協力病院・ホームの連携がよく取れていて適切な医療が受けられるように、支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人・家族・かかりつけ医・職員で話し合いを行い、支援経過を記録し、全員で方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉かけや対応時に注意しながらプライバシーへの配慮を行い、個人情報の保護等は、全職員に徹底している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースに合わせながらケアを行っている。起床時間や朝食・入浴等についても本人の希望に沿って支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や調理・片付けなど、職員と利用者が一緒に行い、食事が楽しみなものになっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間は決めているが、希望があれば、その都度対応している。一人ずつ個浴を楽しめるように見守りや介助の支援を行っている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物干し・洗濯物たたみ・調理・味見・お茶くみ等の役割や絵手紙・脳トレーニング・体操等、一人ひとりの楽しみごとや気晴らしの支援を行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的には畑を眺めに行ったり・ホーム周辺の散歩・買い物・病院受診等に出かけたりしている。加治木の初市や太鼓踊り、溝辺・蒲生町や霧島へドライブして足湯に浸かったりしている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけないケアをしている。職員の見守りを徹底し、入居者の自由な暮らしを支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	ホームとして、地震、昼・夜間想定しての出火場所等、いろいろな場面を想定しながら、避難訓練を行っている。地域との連携も取れており、利用者の搬送予定表も各部屋の入り口に掲げ、万全の体制をとっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分量をチェックして支援を行っている。栄養バランスは主治医や栄養士の指導を受けている。職員はミーティングで一人ひとりの状態を共有し支援を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は室温や換気に配慮し季節の花が飾られ、窓辺の椅子に座って畑を眺めて楽しんだり、対面式のキッチンで対話をしながら食事の準備をするなど、ゆったりくつろげる空間で自由に居心地よく過ごせる工夫をしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	電動ベットとタンスはホームで準備しているが、布団・時計・椅子・写真等、使い慣れたものや好みの物の他、心の拠り所として仏様が置かれる等、安心してくつろぎながら過ごせるように工夫している。		

※  は、重点項目。